



子スッポンから考える生物多様性

8月から10月にかけて、綾南川の支流や水路などでスッポンの赤ちゃんをよく見かけます。甲羅は10円玉くらいのサイズで、かわいらしい姿をしています。

スッポンの産卵時期は6月上旬〜8月下旬。1回の産卵で、10〜40個の卵を産み、ふ化までは60日程度かかります。スッポンの赤ちゃんをよく見



ることができるのは、川や水田などスッポンの生息できる環境が整っているからです。生き物が生息できるさまざまな自然環境があることを「生態系の多様性」といいます。

また川をのぞいてみると、スッポン以外にも魚や水の中で暮らす昆虫、水草などさまざまな生き物がいます。これは「種の多様性」と呼ばれます。

さらに、スッポンの赤ちゃんのおなかを見てみると、それぞれ模様が異なっているのが分かります。このように、同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があります。これを「遺伝子の多様性」といいます。生き物の暮らす環境、生き物の種類、遺伝子の違いという生き物たちの豊かな個性とつながり合いのことを「生物多様性」と呼びます。

生物多様性を守るだけでなく活用することは、ユネスコエコパークとしてだけでなく「自然と共生するまち」としての基盤になります。綾町は、平成27年3月に「生物多様性地域戦略」を策定し、多様で豊かな自然や生き物の保全と人とのつながりという視点を綾町の施策に取り入れて実現することを目指しています。

生物多様性を大切にすることは、地域社会が自然の恵みや衣食住や産業、文化をもたらすものとして、持続的に享受することを可能にします。私たちの身の回りにいる驚くほどさまざまな生き物を観察してみてください。自然環境との距離がかつてより離れてきている昨今、私たちの暮らしと生物多様性がどのようにつながっているのか考えてみる機会が必要なのかもしれません。

column

ニホンマムシ

毒をもつ危険なヘビの代表格。出血性の毒を持っており、毒性はハブより強いとされています。

日陰の湿った場所をよくとぐろを巻いているので、山で出くわしたら咬まれないよう注意が必要です。赤茶色のずんぐりした体型で、頭は幅広い三角形。体にはだ円が並ぶ「丸描いてチョン」のような独特の迷彩模様があり、毒があることをアピールしています。

毒をもたないほかのヘビの中には、幼少期にマムシの模様を真似る種類もいるなど、毒々しいルックスは意外な活用をされています。先日エコパークセンターで生まれたアオダイショウの子どももマムシを真似ています。見てみてくださいね。

